

お茶の時間

軍事分界線

柴田 幹雄 陸自75

朝鮮半島問題の記事を読んでいて、軍事分界線という言葉にぶつかった。文脈上、軍事「境界線」と同意だろうとは思ったが、不勉強にも「分界線」はなじみがなかった。

検索すると、非武装地帯の境界線近くにある看板の写真がでてきた。それには軍事分界線という漢字とハンゲル文字、一番下に Military Demarcation Line と英語表記がある。ハンゲル表記はクンサプンゲソンと読むとのこと。軍事境界線の韓国語読みである。

境界線は border または boundary が一般的だろう。line of demarcation を調べると分界線の他、境界線という訳もある。ただ Demarcation で思い浮かぶのは、仕事の担当を区分する時に言うデマケである。第2次世界大戦が終わってソ連軍と米軍が朝鮮半島に進駐し、38度線でそれぞれ軍政を敷いた。この時は恒久的な国家分断のラインにするという意図はなく（そうなるだろうと推測したとしても）あくまで北はソ連担当、南は米軍担当ですよというデマケだったのではないだろうか。分

界線を検索すると植民地分界線という言葉があった。これは15世紀末に新航路、新世界を発見したポルトガルとスペインが地球を分断してそれぞれの勢力範囲を決めたラインである。アジアの一員である我々としてはとんでもない話だが、やはり分け前の縄張りという意味もあるように思う。そのラインを教皇子午線または植民地分界線と呼ばれている。

韓国にしてみると軍政が始まった当時の言葉を単にそのまま使っているのか、国家分断は本意なことで、恒久的に境界線を引いたのではないという意思をもってこの言葉を使っているのかは定かではないが、韓国国防白書は軍事分界線を使用しているとのこと。

防衛省の今年の防衛白書では南北の境界に関してはDMZ（非武装地帯）を使っており、軍事境界線も分界線も使用していない。

